平成２４年度認定（No.69）

農業名人

文化継承名人　　丸山（まるやま）　平治（へいじ）

昭和１４年生まれ　箕輪町在住

生活に根ざした農村文化を伝えたい

生家は水稲と野菜を栽培する農家であり、会社勤務の傍ら３世代の家族とともに生まれ育った地域の中で農業を営んできた。

定年退職を迎えるころから、自分たちが暮らす地域に古くから伝わる農村文化が廃れていくことに危機感を感じ、代々受け継がれてきた風習を季節ごとの農業体験などを通して若者や子どもたちに伝えている。

特に、小正月の行事は先人の知恵と信仰が込められ農業と関わりが深く代々引き継がれてきた風習が多くあり、一つ一つに由来や意味があることを、小さい頃から父親がやっている姿を見て覚え、なかでも穀物の実りの形を真似て餅などで作る「稲花」や「繭玉」、ヌルデなどの木の枝を「粟穂」や「稗穂」に見立て、豊作を願って吊るす『ほんだれ様』を玄関先に飾り、日常使っている農具などに供え物をして祝う『道具の年取り』など、今でも家族とともに行い伝統を守っている。

地区公民館主催の講習会では、季節ごとに、しめ縄飾りやお盆のまんど作りをはじめ竹を使った細工物の技術を伝え、生活に根ざした農村文化の継承に努めている。

町が進める「食・農・健康」をテーマとする、グリーン・ツーリズム事業の田んぼ体験事業では、春の田植えから、草取り、かかし作り、稲刈り・はぜ掛け、脱穀までを、昔ながらの農作業の技と知恵を交えて手ほどきを行い、毎回参加者から大好評を得ている。

また、町郷土博物館協議会委員として地域の文化継承に取り組み、機会あるごとに博物館に再現された『囲炉裏』を囲んで昔話に花を咲かせ、生まれ育った地域の伝統を語り繋いでいる。